

【グラハム物語】

# GRAHAM

## グレートブランド物語

### Great Brand Story

#### 第15回：文と構成 / 河村喜代子



1995年にイギリスの時計技術への尊敬を込めグラハムを立ち上げたエリック・ロト氏。

不可能を可能にするという挑む精神がなければ技術の進歩はない。時計の歴史とはその挑み心の積み重ねに他ならない。そして今どこまで自由を手に行かせるかに挑戦する時計がある。時計史という過去の時間の豊かな積み重ねを手に現代に向き合っている。グラハムという時計ブランドは21世紀の時計が表現できる自由のかたちである。

今さらであるが、名前はいろいろな役割を担っている。他から区別することを主目的にした記号としての役目から、象徴としての意味を託された名前までいろいろだ。グラハムという時計は、イギリスのジョージ・グラハムの名前からきている。彼は1674年に生まれて1751年に亡くなっている。時計の歴史に名を残す人物である。彼がもつとも活躍した時期は、18世紀に手がかる直前の1695年にトーマス・トンピオンというこれまたイギリスの時計史の巨人の工房に入ってから時代だ。トンピオンの死後、彼は自身の工房を開いて自分の名前

を時計に刻むようになる。時計製作者として時計に名を記すということは、マスターの称号を認められたことを意味している。隣ページにある華麗な装飾を施した時計はそのひとつであり、そこには Geo Graham London の文字が刻まれている。そして現在、グラハム

の名前で呼ばれる時計がある。これはエリック・ロトという人物なしには存在しえなかったブランドだ。彼はイギリスという国が17世紀から18世紀にかけて連続して培ってきた時計技術の高さを、現代という時代へ連れ帰ることにした。それが1995年のザ・ブリティ

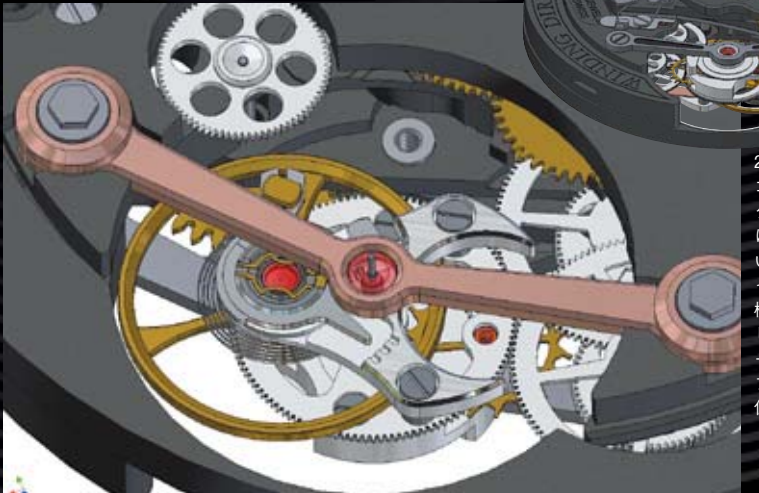
ツシユ・マスターズ設立へとつながる。エリック・ロト氏はスウォッチグループの製器開発部門の責任者として時計とかかわってきた。それがザ・ブリティツシユ・マスターズで目指したものが、グラハムという時計で表現されている。この人物が信じるころは破格だ。

それを美現させるためには優れた時計技術が不可欠であり、それを提供できる土地として選ばれたのがスイスのラ・シヨードフォンだった。

2009年に発表された最新のコレクションにトゥールビヨグラフトリガーがある。これはグラハムの代名詞となっているクロノグラフに重力によって生じる姿勢差を消し去る機構、トゥールビヨンを搭載したものである。天眞とトゥールビヨンケージの中心をオフセットにして、文字盤の4時位置に据えている。



トゥールビヨグラフ開発は2005年に始動し、セルワールドでデビューするまでにトゥールビヨンに2件の特許技術を新たに考案した上にこれぞグラハムとの声があるデザインにまとめあげた。



イギリスの時計師ジョージ・グラハム(1673-1751)。トーマス・トンピオンの工房に入り、後継者として柱時計用だったシリンドラ脱進機に改良を加え、1745年ころにはそれを写真にあるようなポケットウォッチ用ムーブメントに組み込めるまでに小型化した。さらには彼自身の名で呼ばれるグラハム脱進機や、水銀補正振り子など時計史に残る技術開発をつづけた。グラハムはトーマス・マジなど優れた弟子を育てて、イギリスの時計技術発展に貢献した。





グラハム最大の特徴は超大型のプッシュピースとレバーである。クロノグラフ操作に必要な動作を確実に実施するために必要不可欠なツールとして採用されている。かつてエアクルーたちは手袋を装着したまま機器を操作した。その時代にあってもグラハムは使えるツールであったはずである。  
Photo/US Army Air Force

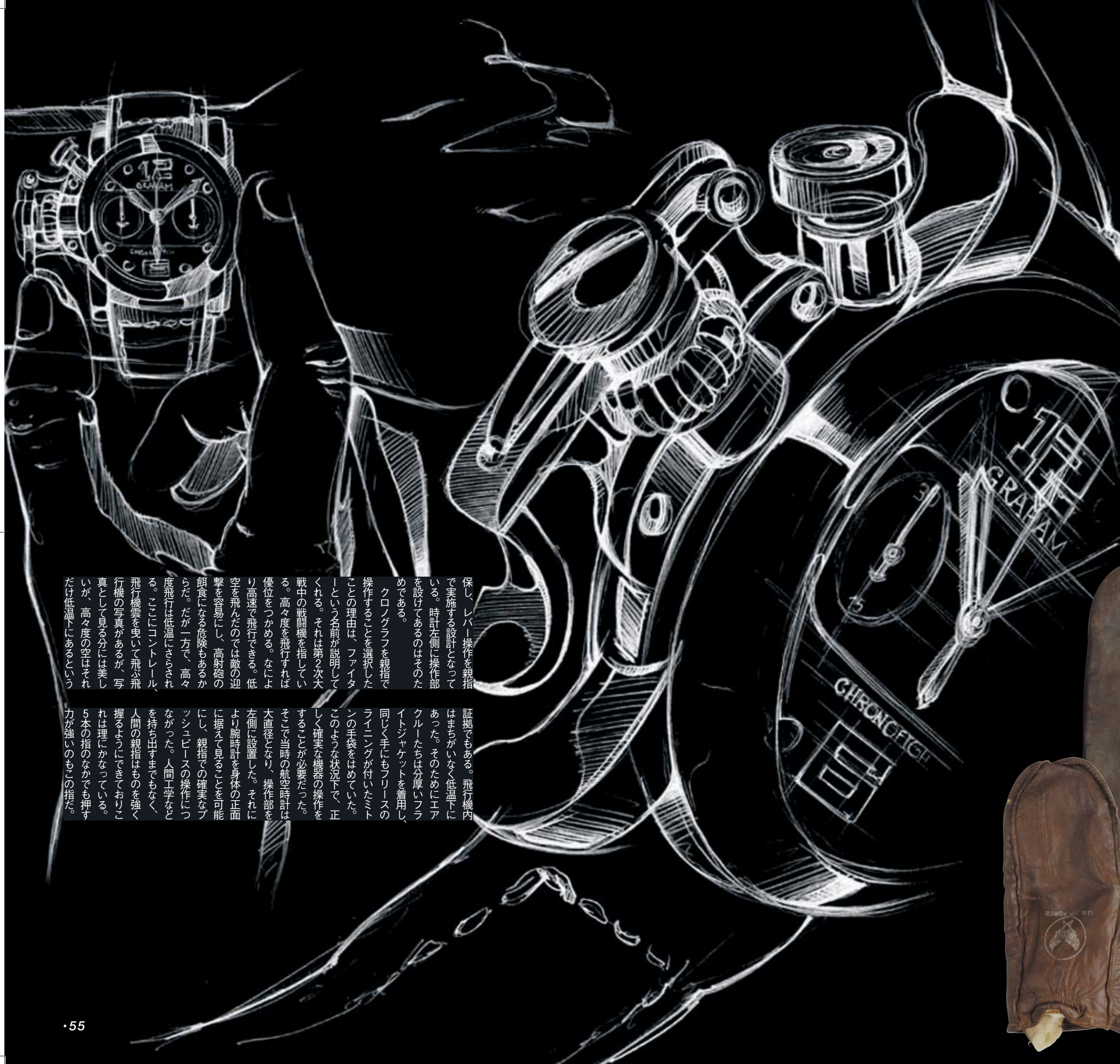


**限界を押し上げるために  
グラハムが選んだ破格デザイン  
革新性はそこに宿る**

グラハムのコレクションは、ほとんどがクロノグラフで占められる。上の写真はこのブランドを代表するコレクションのクロノファイターである。そのなかのRACスケルトンというモデルである。フランス語のroue à os (bone) という頭文字を集めたRACとは「ラムホイール」を意味し、クロノグラフを動かすムーブメントにそれが採用されている。そして外見上の最大の特徴となっている時計左側にあるレバーは、クロノグラフをスタートさせ、またストップさせるための操作を担当するリュウズに直接働きかける。実際の操作方法は、ここに挙げてあるコンセプトデザイン画に示されている。時計を人差し指と親指を挟むようにして確



これは第2次大戦の米陸軍航空隊時代のミントだ。当時の爆撃機内は低温下であり防寒具が不可欠だった。ジェット機時代となってもパイロットたちは手袋をして複雑なボタンやレバーの操作を求められる。確実に実施するために機械の側では人間工学に基づいたデザインで設計されてきた。  
Photo/WPP Collection



保し、レバー操作を親指で実施する設計となっている。時計左側に操作部を設けてあるのはそのためである。

クロノグラフを親指で操作することを選択したこと理由は、ファイターという名前が説明してくれる。それは第2次大戦中の戦闘機を指している。高々度を飛行すれば優位をつかめる。なにより高速で飛行できる。低空を飛んだのでは敵の迎撃を容易にし、高射砲の餌食になる危険もあるからだ。だが一方で、高々度飛行は低温にさらされる。ここにコントロール飛行機を曳いて飛ぶ飛行機の写真があるが、写真として見る分には美しいが、高々度の空はそれだけ低温にあるという

証拠でもある。飛行機内はまじかいたく低温下にあった。そのためエアクルーたちは分厚いフライトジャケットを着用し、同じく手にもフリースのライニングが付いたミントの手袋をはめていた。このような状況下で、正しく確実な機器の操作をすることが必要だった。そこで当時の航空時計は大直径となり、操作部を左側に設置した。それにより腕時計を身体の正面に据えて見ることを可能にし、親指での確実なプッシュピースの操作につながった。人間工学などをもち出すまでもなく、人間の親指はものを強く握るよつにできておりこれは理にかなっている。5本の指のなかでも押し力が強いのもこの指だ。



**ビッグシルバーストーン・ストウレーシング**  
 世界限定500本。自動巻き(バイコンパックス)直径48mm。ステンレススチールケース。カーボンファイバー・レーシングブルーのベゼルにGMT機能搭載。100m防水。英F1レースの聖地シルバーストーンサーキットの最大オーバーテイク・コーナーを冠する。価格106万5000円



**クロノファイター・オーバーサイズ・チタニウム マン島TTレース限定モデル**  
 2009年以降3年間のオフィシャルタイマーへの就任を記念して製作された世界限定100本。自動巻き(トリコンパックス)。スモールセコンドカウンターは3本足のTTレースのロゴをポイントにする。直径47mm。チタンケース。カーボンファイバーベゼル。100m防水。価格111万3000円



Photo/Courtesy of Stephen Davison



**クロノファイター・オーバーサイズ・チタニウム タックラー**  
 RBS6ネーションズ限定モデル。オフィシャルタイマーの就任を記念して製作された世界限定200本。自動巻き(トリコンパックス)直径47mm。チタンケース。100m防水。グラハムを代表するクロノファイター・オーバーサイズのクロノグラフのスタート&ストップはもちろんレバー操作で確実にスピーディに実施される。これはマン島TTレース限定モデルも同様である。価格101万8500円



Photo/Courtesy of Stephen Davison



Photo/Courtesy of Stephen Davison



Photo/Courtesy of Stephen Davison



時計にとっての核とは精度である。信頼も美しさも、時計の場合それはすべてを支えている。スポーツやスピードが支配するシーンで、オフィシャルタイマーを務めることは、グラハムという時計の誇りがつちがらいた。それを支えてくれる。そして精度は技術であり、その土台さえ築くことができたなら、そこから冒険が始まる。挑戦が生まれる。角度を変えて見れば、時計はとどこまで自由になれるのかという問いにつながる。2009年にグラハムがそれに対して提示したひとつの答えが、クロノグラフにトゥールビヨンを搭載したトゥール

精度である。信頼も美しさも、時計の場合それはすべてを支えている。スポーツやスピードが支配するシーンで、オフィシャルタイマーを務めることは、グラハムという時計の誇りがつちがらいた。それを支えてくれる。そして精度は技術であり、その土台さえ築くことができたなら、そこから冒険が始まる。挑戦が生まれる。角度を変えて見れば、時計はとどこまで自由になれるのかという問いにつながる。2009年にグラハムがそれに対して提示したひとつの答えが、クロノグラフにトゥールビヨンを搭載したトゥール

精度である。信頼も美しさも、時計の場合それはすべてを支えている。スポーツやスピードが支配するシーンで、オフィシャルタイマーを務めることは、グラハムという時計の誇りがつちがらいた。それを支えてくれる。そして精度は技術であり、その土台さえ築くことができたなら、そこから冒険が始まる。挑戦が生まれる。角度を変えて見れば、時計はとどこまで自由になれるのかという問いにつながる。2009年にグラハムがそれに対して提示したひとつの答えが、クロノグラフにトゥールビヨンを搭載したトゥール

精度である。信頼も美しさも、時計の場合それはすべてを支えている。スポーツやスピードが支配するシーンで、オフィシャルタイマーを務めることは、グラハムという時計の誇りがつちがらいた。それを支えてくれる。そして精度は技術であり、その土台さえ築くことができたなら、そこから冒険が始まる。挑戦が生まれる。角度を変えて見れば、時計はとどこまで自由になれるのかという問いにつながる。2009年にグラハムがそれに対して提示したひとつの答えが、クロノグラフにトゥールビヨンを搭載したトゥール